

様

新型コロナウイルス感染症対策等に係る

緊急要望書

- 予備費等を活用した機動的対応について
- 観光産業への支援について

令和2年7月

自由民主党京都府議会議員団

予備費等を活用した機動的対応に関する緊急要望

新型コロナウイルス感染症については、5月25日に緊急事態宣言が解除され、段階的な社会経済活動の回復に向けた取組が進んでおりますが、5月の有効求人倍率がオイルショックに次ぐ下げ幅となるなど、足下の雇用情勢・経済情勢は厳しさを増している状況にあり、さらに東京都をはじめとして全国で感染者数が増加に転じるなど、社会経済活動への深刻な影響の長期化がますます懸念される状況にあります。

こうした状況等を踏まえ、取り急ぎ、第2次補正予算で計上された「新型コロナウイルス感染症対策予備費」の活用を含めた機動的な対応について、下記のとおり緊急に要望します。

記

1、雇用調整助成金の緊急対応期間の延長

雇用調整助成金の緊急対応期間（本年9月30日まで）について、事業活動の回復が十分でない業種においては、引き続き雇用を維持しつつ従業員を休業させざるを得ない状況にあることから、地域の雇用を維持するため、さらなる期間の延長を図るとともに、早急に対応方針を示すこと。

2、未来につながる雇用創出対策

地方の雇用不安を払拭するため、解雇・雇止めになった失業者の方に対する仕事づくり（緊急雇用創出）事業のみならず、今回はその対象を在職者にも拡充し、年度をまたいで柔軟に運用できる、リーマンショック時を上回る新たな仕事づくり基金制度を創設する等、未来に繋がる雇用創出対策を緊急に講じること。

3、実質無利子・無担保融資の限度額の引き上げ

民間金融機関の実質無利子・無担保融資における現在4,000万円の融資限度額について、比較的大きな資金需要がある中小企業等の資金繰りを迅速かつ円滑に支援するため、日本政策金融公庫の制度と同様に、実質無利子となる限度額を2億円へと引き上げること。

4、教育現場へのさらなる支援措置

学校休業の影響による学習の遅れを取り戻すため、夏休みの短縮やカリキュラムの工夫等、我が国の未来を担う子ども達の「学びの保障」を支えるべく取り組んでいる教育現場に対し、医療・介護の現場への対応も参考としつつ、さらなる支援措置等を講じること。

観光産業への支援に係る緊急要望

新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大が続き、我が国経済全体にわたって大きな影響が出ていますが、特に観光業については、緊急事態宣言下での移動自粛要請や入国制限などにより、4月、5月の訪日外国人客数は前年同月比で99.9%落ち込むなど、その影響は特に大きなものとなっています。

政府においては、第1次、第2次の補正予算を成立させ、観光事業者を含めた地域の事業者の事業継続を支援いただいているところですが、我が国の成長産業である観光事業の担い手を支え、ポストコロナでの成長につなげていくためにも、観光事業者に対する確な措置が講じられますよう、次のとおり緊急に要望します。

記

1、雇用調整助成金の緊急対応期間の延長

雇用調整助成金の緊急対応期間について、9月30日まで延長されたところであるが、インバウンド観光がしばらくの間回復の見込みが立たない中で、地域の観光事業者からは、「営業を再開したが、まだまだ社員の大半を休ませている」といった声が多く聞かれることから、地域の雇用を維持するため、さらなる延長を図ること。

2、実質無利子・無担保融資の上限額の引き上げ

補正予算で創設された民間金融期間における実質無利子・無担保融資について、京都においては、最短約2週間程度で融資実行に至るなど中小企業にとって大変有意義な制度となっているが、比較的大きな資金需要がある中小企業等の資金繰りを支援するため、融資の上限額4,000万円を、日本政策金融公庫の同様の制度と同額となる2億円に引き上げること。

3、修学旅行の再出発について

修学旅行は、多様な生活文化や自然、世界に誇る日本の文化に直接触れて見聞を深めるなど、学校関係者や生徒、保護者の間でその重要性が理解されている。第1次補正予算において、学校の臨時一斉休業の要請に伴い、修学旅行の中止や延期に係るキャンセル料などの追加費用について国費で負担軽減が図られたところであるが、修学旅行が我が国の教育に果たしてきた意義から、その機会は全国の生徒が均等に享受できるべきであることや、修学旅行が都道府県を跨ぐ広域移動を伴うことなどから、全国一律の制度として引き続き国費で措置されたい。

令和 2 年 7 月

自由民主党	東京都府議会	議員団	
団	近藤	永太郎	郎
代表	秋田	公隆	司
代表	荒池	正實	三義
政調	池小	健寛	司史
	前菅	英宗	志夫
	田石	邦誠	久子
	渡片	真重	治士
	二井	和昌	典久
	兔能	源裕	博郎
	四藤	弘裕	子道
	園岸	正武	一孝
	中磯	友義	勝文
	中家	豊	優子
	宮青	慎祥	照久
	荻森	良	亨治
	北田		充崇
	田古		